

1. 略歴

1993年3月	一橋大学社会学部卒業
1994年4月	東京大学大学院 社会学研究科社会学専攻 修士課程入学
1996年3月	同 人文社会系研究科社会文化研究専攻 修士課程修了
1996年4月	同 博士課程進学
2001年3月	同 博士課程単位取得退学
2001年4月	博士(社会学) 学位取得(東京大学)
2001年4月	立命館大学産業社会学部助教授(～2007年3月)
2005年9月	フランクフルト大学社会研究所客員研究員(～2006年9月)
2007年4月	立命館大学産業社会学部准教授(～2008年3月)
2008年4月	明治大学情報コミュニケーション学部准教授
2011年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

理論社会学 社会学史研究

b 研究課題

- (1) フランクフルト学派の学説史研究
- (2) コミュニケーション理論、承認理論に基づく批判的社会理論の展開
- (3) 日本の社会学史の再評価と海外への紹介

c 概要と自己評価

- (1) エーリッヒ・フロムの理性概念とそれに基づく社会批判の再構成を行っている。その成果を国際エーリッヒ・フロム協会主催の国際会議で報告、論文として発表した。現在は後期フロムのナルシズム論の再評価を行う一方、後期ヒューマニズムを生成の哲学の観点から再構成する作業に取り組んでいる。
- (2) 現代資本主義の構造的特質を理論的に解明する。「資本主義的近代化のパラドックス」や現代社会がかかかえる社会病理の諸相を承認論、コミュニケーション論の観点から分析している。
- (3) 欧米の社会学理論を背景に戦後日本で発展した社会学理論の独自性に注目し、その現代的意義を再評価すると同時に、国際会議の場で世界に発信している。

d 主要業績

(1) 論文・著作

出口剛司、「ポスト真実における社会学理論の可能性—批判理論における理論の機能を手がかりにして」『現代思想』vol. 45-6、pp. 234-45、2017

『大学4年間の社会学を10時間で学べる』(単著) 角川書店、2019、230頁

(2) 学会発表

国内(司会)、出口剛司、第90回日本社会学会大会シンポジウム、東京大学、2017.11.5

国際、Takeshi Deguchi、「Post-truth Politics as a Pathology of Normalcy: Beyond alienation and narcissism in the age of globalisation」、International Erich Fromm Research Conference, Berlin International Psychoanalytic University, Berlin、21th-23th June 2018

国際、Takeshi Deguchi、「Healing Power and Artificial Intelligence: How can an animal-type robot have a mind?」、New Perspectives on the Digital Revolution: Media and cultural transformations, Hawke EU Centre, the University of South Australia, Adelaide、8th August 2018

国際、Takeshi Deguchi、Healing、「Power and Artificial Intelligence: How can an animal-type robot have a mind?」、2018 SNU-UT Joint Sociological Forum, Seoul National University, Seoul、9th-10th November 2018

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、明治大学大学院情報コミュニケーション研究科、「社会的人間論」、2013.4～

非常勤講師、明治大学情報コミュニケーション学部、「コミュニケーション基礎」、2013.4～

非常勤講師、立教大学社会学部、「社会学史」、2013.4～

非常勤講師、中央大学法学部、「現代社会理論」、2013.9～

(2) 学会

国内、日本社会学理論会、理事（運営委員会）、2016.9～2018.9

国内、日本社会学史学会、研究担当理事、2014.6～

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター、運営委員（学外委員）、2012.1～